



平成30年11月 1 日

# 管内経済情勢報告

平成 3 0 年 1 1 月

財務省福岡財務支局

〔問い合わせ先〕


財務省 福岡財務支局 経済調査課

TEL 092-411-9038

FAX 092-452-1318

## 1. 総論

### 【総括判断】「管内経済は、回復している」








項目	前回（30年7月判断）	今回（30年10月判断）	前回比較
総括判断	回復している	回復している	

（注）30年10月判断は、前回7月判断以降、足下（10月末）の状況までを含めた期間で判断している。

#### （判断の要点）

個人消費は、百貨店・スーパー販売額、家電販売額が前年を下回ったものの、コンビニエンスストア販売額、ドラッグストア販売額などが前年を上回るなど、回復している。生産活動は、自動車海外向けを中心に引き続き好調に推移するなど、緩やかに回復している。雇用情勢は、有効求人倍率が引き続き高水準で推移するなど、改善している。

#### 【各項目の判断】

項目	前回（30年7月判断）	今回（30年10月判断）	前回比較
個人消費	回復している	回復している	
生産活動	緩やかに回復している	緩やかに回復している	
雇用情勢	改善している	改善している	
設備投資	30年度は増加見通し	30年度は増加見通し	
企業収益	30年度は増益見通し	30年度は増益見通し	
住宅建設	前年を上回っている	前年を下回っている	
輸出	前年を上回っている	前年を上回っている	

#### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響等海外経済の不確実性などに留意する必要がある。

## 2. 各論

### ■ 個人消費 「回復している」

百貨店・スーパー販売額は、スーパーでは飲食料品が堅調であるものの、百貨店では衣料品等が低調なことなどから、全体では前年を下回っている。コンビニエンスストア販売額は、新規出店効果に加え、店内調理の食料品が好調なことなどから、前年を上回っている。乗用車販売は、小型車が前年を下回っているものの、普通車、軽自動車では新型車が好調なため前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。ドラッグストア販売額は、新規出店効果に加え、飲食料品等を中心に好調なことなどから、前年を上回っている。家電販売額は、高性能家電等の普及拡大に伴い商品単価が低下していることなどから、前年を下回っている。ホームセンター販売額は、DIY用品や資材などが好調であったほか、冷房器具等にも動きがみられたことなどから、前年を上回っている。このように、個人消費は回復している。

(主なヒアリング結果)

- 食料品は飲料や惣菜を中心に好調を維持している。一方、衣料品は猛暑の影響や専門店との競合等もあり、全般的に動きが鈍かった。(スーパー、大企業)
- 平成30年7月豪雨や台風等の天候要因で来店客数が減少した。衣料品はクリアランスの前倒しの反動等で動きが鈍かったが、足下では秋冬商品に動きがみられる。時計などラグジュアリーブランドや化粧品は、富裕層やインバウンド客において好調を維持している。(百貨店、大企業)
- 新規出店を継続している効果に加え、レジ横の揚げ物類のついで買いが伸びている。猛暑の影響により、飲料、アイス、冷たい麺類、冷凍食品などが好調であった。(コンビニエンスストア、大企業)
- 新規出店を継続しており、化粧品や季節商品(飲料、アイス、日焼け止めなど)が好調に推移した。(ドラッグストア、大企業)

### ■ 生産活動 「緩やかに回復している」

輸送用機械の自動車は、海外向けを中心に引き続き好調に推移するなど、緩やかに回復している。鉄鋼は、国内外向けの自動車用鋼材や海外向けの軌条が好調なことなどから、高い操業を維持している。電子部品・デバイスは、車載向けを中心に引き続き好調に推移している。造船は、高めの操業を維持しているものの、受注価格は低い状態が続いている。このように、生産活動は緩やかに回復している。

- 中国向けを中心に海外向けが好調に推移しており、工場はフル操業の状態となっている。(自動車メーカー、大企業)
- 自動車向け鋼材の生産は国内外ともに受注が好調であることや、海外向けの軌条の生産が好調に推移していることなどから、工場は高操業の状態となっている。(鉄鋼、大企業)
- ハイブリッド車の電子機器制御などに使用される製品の需要が高く、引き続き好調に推移している。(情報通信機械器具、中堅企業)

### ■ 雇用情勢 「改善している」

有効求人倍率は、6・7月に最高値を更新して以来、引き続き高水準で推移している。新規求人数は、医療・福祉及び宿泊業・飲食サービス業等で増加している。新規求職者数は引き続き前年を下回っている。このように、雇用情勢は改善している。

(参考) 福岡県の賃金の動き 現金給与総額は前年を下回っている。

- 業界全体として慢性的に人手不足。給料増、時間短縮勤務などの対策を打ち出しているが、中々人出が集まらないため、外国人の採用について検討している。(医療・福祉、中堅企業)
- 新規店舗、既存店舗共に人手が不足している。募集をかけているが応募が少なく、人手不足感は一段と深刻化している。(飲食サービス、中小企業)
- 新規求職が4か月連続で前年同月を下回る一方、企業の求人意欲は引き続き高く、新規求職が増加している高齢者層や潜在的求職者となっている女性層に対して、勤務時間短縮など就業環境を緩和することが求められている。有効求人倍率は依然として高水準で推移しており、当面現在の情勢が継続する見込み。(労働局)

■ **設備投資** 「30年度は増加見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年7-9月期

- 製造業では、自動車・同附属品等で減少見通しとなっているものの、非鉄金属、窯業・土石製品等で増加見通しとなっており、全体では増加見通しとなっている。
- 非製造業では、金融、保険等で減少見通しとなっているものの、運輸、郵便、小売等で増加見通しとなっており、全体では増加見通しとなっている。

- 半導体向け製品の増産にかかる工場への設備投資のほか、高精度化に伴う投資を実施する予定。(非鉄金属、大企業)
- 鉄道事業における安全投資を中心に、商業ビルや賃貸マンション、ホテルの建設等の成長投資を計画。(運輸、大企業)

■ **企業収益** 「30年度は増益見通し」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」30年7-9月期

- 製造業では、情報通信機械器具等で減益見通しとなっているものの、自動車・同附属品、非鉄金属等で増益見通しとなっていることから、全体では増益見通しとなっている。
- 非製造業では、情報通信等で減益見通しとなっているものの、小売、建設等で増益見通しとなっていることから、全体では増益見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「前年を下回っている」

- 新設住宅着工戸数で見ると、持家及び給与住宅が増加しているものの、貸家及び分譲住宅が減少していることから、前年を下回っている。




■ **輸出** 「前年を上回っている」

- 輸出(円ベース)は、一般機械、電気機器を中心に増加していることから、前年を上回っている。  
なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

(その他項目)

- 企業の景況感を法人企業景気予測調査(30年7~9月期)の景況判断BSIで見ると、30年7~9月期は、引き続き「下降」超となっている。先行きについては、30年10~12月期に、「上昇」超に転じる見通しとなっている。

3. 管内各県の総括判断

	前 回 (30年7月判断)	今 回 (30年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
福岡県	回復している	回復している		個人消費は回復しているほか、生産活動は緩やかに回復しており、雇用情勢は改善している。
佐賀県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある		個人消費は持ち直しているほか、生産活動は緩やかに回復しつつあり、雇用情勢は改善している。
長崎県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している		個人消費は持ち直しつつあるほか、生産活動は緩やかに持ち直しており、雇用情勢は改善している。